

クラブ・VIPルーム（夜）

高価な身なりの男——一橋哲郎（62）が、正木玲奈（28）の顎を持ち上げる。

キスをするかに見えるが……

正木

「あーんして」
玲奈、ゆっくりと口をあける。

一橋、玲奈の口に錠剤を入れようとする……

そのとき、ドンと、勢いよく扉が開く。

入ってきた千木良大鉄（36）、すかさずカメラを構えてシャッターを切る。

一橋
「な、何してる……」

ニヤリと口角をあげた千木良は一橋に近づき、その表情を写真に収める。

一橋「くそつ」

一橋、千木良に掴みかかる。

しかし、千木良、華麗にかわし、一橋はテーブルにつまずいて転がる。グラスが割れて、散らばる錠剤。仰向けの一橋を、千木良が撮る。

一橋
「何者だ」

千木良「週刊新宝の千木良です」

玲奈、わけがわからず逃げ出そうとする。

千木良「動かないで」

玲奈、ビクツとして制止。

千木良「警察来るから。ありのままを説明して」

玲奈
「警察……」

千木良「飲んでないよね、それ」

床に散らばった錠剤。

玲奈は一瞥して、小刻みに頷く。

千木良「それ、合成麻薬」

玲奈
「え……」

一橋、千木良の足を掴もうとするが、かわして、シヤツターを切る。

千木良「製薬会社の社長が裏では麻薬捌いてるなんて、笑えないでしょ」

直しのポイント

- ①いきなりドアが開くと、キスしようとしていたのが伝わらない。観客は悪い奴かもわからないので、しかし錠剤もセットアップ。
- ②千木良の動きが警察みたいなので、カメラなら、その動きに徹する。
- ③書いていても、警察がいつくるのかとか、その辺りの疑問が否めない……それによって、展開などまるで変わる。